

## I 実践

### 1 研究主題

思いやりの心をもち、互いを認め、助け合う行動がとれる児童の育成

#### (1) 主題設定の理由

思いやりの心を実際の言動として表現することを大切にし、今まで以上に互いの人権を尊重し合い、助け合う人間関係を築いていける児童の育成を目指し、本主題を設定した。

#### (2) 研究の内容

- ① 道徳の時間や特別活動、総合的な学習の時間における人権教育の充実
- ② 体験・交流活動ができる場の設定
- ② 話す・聞く・話し合う力を育む指導の充実

### 2 実践内容

#### (1) 全校での取り組み

##### 【道徳の時間の充実】

場面絵や発問の工夫、G Tの活用に加え、めざす児童像に向けて、他教科や地域との関連も図った道徳の授業を行ってきた。自分の内面を見つめ、考えを深められるようにするために、話し合いの時間を意識的に設け、さらに実践力を高めていこうとしたものである。また、どの学級も年に1度は道徳の授業を保護者に公開し、家庭でも道徳的な内容について話し合えるようにした。

##### 【心の伝言板の設置】

他者との関わりの中で、心に響いたことや心温まったことをカードに書き、みんなに紹介できる掲示コーナーを設置した。多くの感動体験を共感をもって読み、互いの思いを理解する場の一つとした。

##### 【教室の掲示物の工夫】

友達の良さを見つけたカードや自分の思いを伝えたカードを掲示して、互いを思いやる雰囲気を教室につくる工夫をした。

##### 【人権メッセージの応募】

全学年で人権メッセージに取り組み、できた作品は学級ごとに掲示し、クラス代表3名の作品は人権コーナーに掲示した。

##### 【伝え合う力を高める授業】

国語の授業を中心に、話す・聞く力を高める活動を丁寧に取り上げ、自分の思いをきちんと伝えようとする意思と伝えることのできる力、友達の思いをしっかり受け止めようとする意識と聴き取る力の向上を図ってきた。

##### 【JRC 活動】

毎朝、委員会活動として朝の挨拶運動を行っている。本年度は挨拶標語を募集したり、挨拶ポスターを描いたり、挨拶を呼びかける掲示物を作ったりして元気な挨拶への啓蒙を図った。

#### (2) 各学年の取組

##### <第1学年（生活科）>

##### 【昔遊び体験】

地域のお年寄りに昔遊びを教えてもらう活動を通して、自分の祖父母とはまた違った高齢者のすばらしさに触れ尊敬の念と親しみをもつことができた。

##### <第2学年（生活科）>

##### 【諏訪小フェスティバル】

2年生が自分たちで考えた店を開き、1年生を招待して秋の収穫祭を行った。1年生と異学年交流をする中で、下級生の面倒を見られる満足感や相手に自分の伝えたいことが伝わったときの喜びなどを感じることができていた。

##### <第3学年（総合的な学習の時間）>

##### 【たんけん・はっけん諏訪じまん】

諏訪学区内の店を訪ねて仕事内容や仕事へ思いをインタビューした。グループ行動をする中で人と協調することの大切さを学び、店の人の話から自分たちが多くの人に支えられて生きていることや人の生き方について学ぶことができた。



#### <第4学年（道徳・学級活動）>

##### 【人権感覚を養い実践力を育てるために】

道徳と学級活動の授業を行うことによって、人権感覚を養い実践力を育てる学習プログラムを作り実践した。まず道徳では、自他の生命を尊重する気持ちと他の人のために役立ちたいという思いをもつことができた。学級活動では、自他の人権を尊重するためには、互いの価値観の違いを認めたり、互いの思いを伝え合って合意を得たりする努力が必要であることを学んだ。また、日常的に友達のよさを認め合う活動を行った。

#### <第5学年（総合的な学習の時間）>

##### 【福祉体験活動】

人権尊重の教育に関わる内容を体験的に学ぶことによって、人権意識を高めたいと考え、車イスやアイマスク体験、高齢者の疑似体験などの活動を行った。障害をもつ人や高齢者の日常生活の大変さを知り、社会的弱者や困っている人にどのような手助けができるかを学び、考えることができた。

##### 【敬老会への参加】

毎年行われている諏訪地区敬老会に、演芸の部での発表ばかりでなく、運営スタッフとしても参加した。会場の案内をしたりお茶を出したりして、お年寄りとの交流をもった。実践する中で、人の気持ちを思いやって行動するとはどういうことなのかを少しずつ理解し、工夫をしながら活動することができた。また、お年寄りに渡す励ましの手紙については、3年生以上の全児童で取り組み、児童によっては、手紙を渡した相手から返事をもらうことができ、心を温めることとなった。

#### <第6学年>

##### 【1年生との交流】

6年生は、1年生が入学しての4・5月を中心に、1年生の教室を訪ね、朝の時間に読み聞かせをしたり、休み時間に鬼ごっこや長縄で遊んだりするなど、積極的に1年生と関わり、楽しい学校生活を支えていた。2・5年生と3・4年生は体力テストの時に一緒に活動し、上級生が下級生の面倒を見た。それをきっかけに積極的に関わるようになり、休み時間に一緒に遊ぶ姿がたくさん見られるようになった。

#### <くすのき学級>

##### 【ソーシャルスキル】

本年度、本校にも特別支援学級が立ち上がった。相手にかけてよい言葉といけない言葉を学ぶための学級活動として行われた「あったか言葉 ちくちく言葉」はまさに人権教育である。この授業の後、ものの貸し借りの時に「貸して」「いいよ」「ありがとう」を必ず言うようになった。

「かして」とか  
「いいよ」とか  
「ありがとう」と言うとお友達とかいつもいる人ともっともっと仲良くなるんだなと思いました。

### 3 成果

道徳や学級活動の実践では、互いを思いやる意識の向上と実践への意欲が見られた。国語の授業を中心とした話す聞く指導の工夫によっても、伝え合う意識と実践力の向上が見られ始めた。

## II 今後の課題

- 1 道徳や学級活動の授業、また体験活動で感じる人権意識がその場限りにならず、児童一人一人の生き方・生活行動となっていけるよう継続的な指導を心がけていきたい。
- 2 教職員や家庭、地域社会が、人権に対する意識を高められるような啓発活動を工夫していくことが必要である。学校と家庭、地域社会が協力・連携し合い、地域全体でよりよい人権尊重の教育を展開していきたい。

## III 人権コーナー設置の様子

本年度も人権メッセージに全校児童で取り組み人権コーナーに各クラス代表のメッセージを掲示した。また、JRC委員会では朝のあいさつ運動を積極的に行っているが、その様子や呼びかけの言葉などを掲示し、全校的な実践へと広がっていけるようにした。今後も人権尊重の実践へのきっかけをつくっていけるような掲示を目指していきたいと考えている。

